

## 132. 古絵図より見た 膳所城

本稿は天津市膳所本丸町に位置する膳所城の特徴について、古絵図を基に築城当初より幕末にかけての姿を通覧したものである。

同城は慶長6年(1601)徳川家康によって築城が開始されるが、寛文2年(1662)近江地方を襲った大地震によって、城郭全体甚大な被害を受けてしまう。その後の復旧では、単なる被害部分の修復に止まらず、城郭中心部の大規模な縄張りの改造が行なわれるのである。

ここでは、それらの時期を以下の三つの時期に分類し考察を進めていくことにする。

- (一) 前期：慶長6年築城開始より寛文2年地震を受けるまでの膳所城草創時代。
- (二) 震災期：寛文2年5月に起きた大地震を受けた直後から修復工事が終わるまでの災害復旧時代。
- (三) 後期：修復工事が完成してより、明治3年棄却されるまでの約200年間の時代。

### 〔膳所城の概要〕

膳所城は家忠日記に「慶長6年丑6月諸国守に命じて江州膳所崎に城を築かしめ給ふ。奉行八人之を監す。天下普く治め給う後、城を築かしむるの始也」とあり、慶長6年に始まる新封大名の城郭建設ラッシュ、いわ

ゆる天下普請の最初であると言われている。城郭の形式は、琵琶湖上に築き出た典型的な水城で、縄張は当時最高のプランナーである藤堂高虎によって行なわれている。

膳所の地は、古来より栗津の荘と呼ばれる朝廷の御供所で、陪膳浜とも称し膳所の地名もこれに由来する。

築城にあたっては、家康は本多土佐守正信の進言を入れ、前年焼失することなく落城した大津城を地勢的に欠点が多いとして廃止し、その遺材をもって新規の城として膳所崎に築いたものである。それはこの地が大坂へ通ずる重要水路である瀬田川河口に近く軍事上の要衝として重視したもので、まさにこの点において初期の膳所城築城の意義があるのである。

初代の城主は当時大津城を守った戸田一西が三万石で選ばれ、以後他藩同様目まぐるしく、本多、菅沼、石川氏と徳川譜代の大名が務め、慶安4年(1651)本多俊次が伊勢亀山より再封されてより以後、本多氏が6万石で幕末まで領主を務めることになった。

### 〔膳所城古絵図について〕

ここで紹介するものは、膳所城の城郭部が知られる表に掲げた14の古絵図類である。

この他、二ノ丸御殿、遵義堂(藩校)、街道筋絵図、火除地の計画図などの関連絵図が現存している。

### 〔各時代の特徴〕

#### (一) 前期

この時期は慶長6年より寛文2年5月の大地震を受

近江国膳所城古絵図一覧表

時代区分	番号	年代	内容(※題名)	所有者	備考
前期	1	正保年間 (1644~1647)	正保城絵図	内閣文庫	写真1
	2	正徳6年(写し) (1716)	正徳6年写し	蓬左文庫	写真2
	3	不詳	城郭絵図	大熊喜邦	明治前日本建築技術史所載
	4	寛文2年以前	近江名所風俗図屏風	サントリー美術館	
震災期	5	寛文2年(1662)	膳所城修復願々所絵図	県立図書館	写真3・4 大津市指定文化財
	6	寛文4年(1664)	江州膳所城之図	(向坂氏)	膳所城藩懐舊坐談所載
後期	7	貞享5年(1688)	一部修理	緑心寺	写真5
	8	元禄15年(1702)	※膳所総絵図	中村家	写真6 大津市指定文化財
	9	宝永4年(1707)	地震破損修復図	沢村家	
	10	正徳5年(1715)	堀さらえの計画図	緑心寺	
	11	元文2年(1737)	※近江国膳所城破損之覚え	県立図書館	
	12	文化10年(1813)	石垣修理	＃	
期	13	不詳	諸国当城之図	浅野文庫	諸国154図のひとつ
	14	明治27年(写し)	※旧膳所城郭明細図	県立図書館	膳所某の写し、鳥瞰図

(一) 前期 (慶長6年~寛文2年)

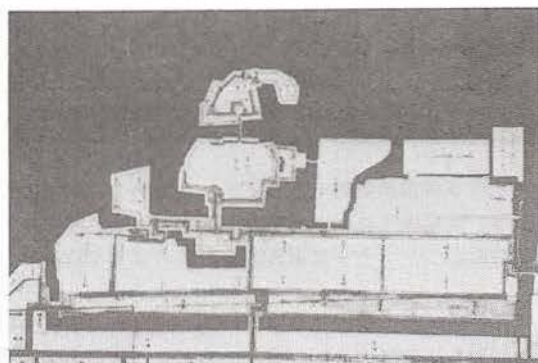


図-1 正保城絵図  
(日本城郭大系より転載)

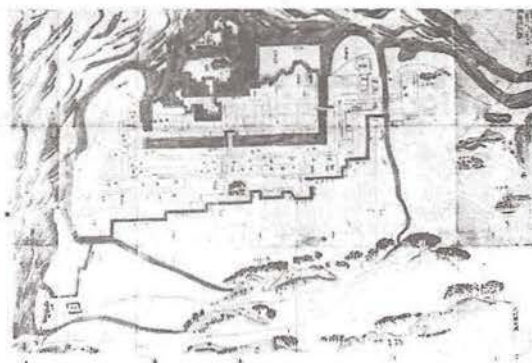


図-2 蓬左文庫 絵図  
(名古屋市蓬左文庫所蔵)

(二) 震災時期 (寛文2年)

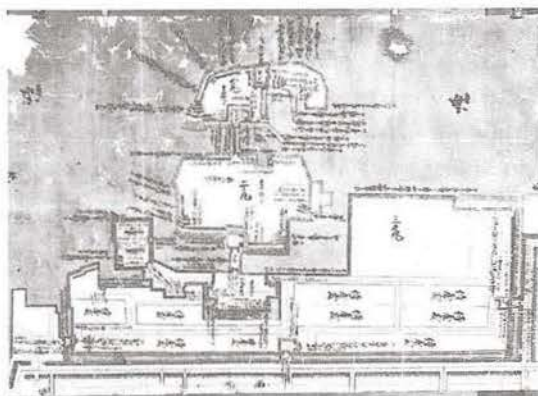


図-3 寛文2年絵図 (被害状況)

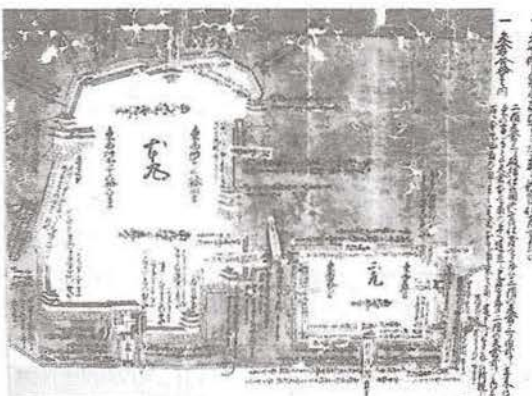


図-4 同前 (改修計画)

(三) 後期 (寛文~明治4年)

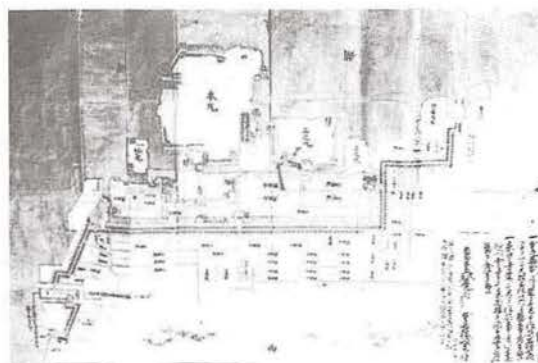


図-5 貞享5年 絵図

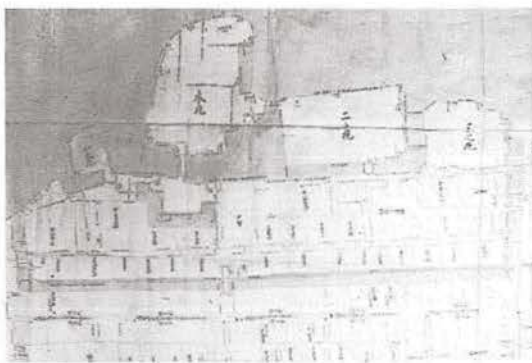


図-6 元禄15年 絵図

けるまでの約60年間で、近世初頭の膳所城の様子を知る上で貴重な4種の絵図が現存する。

1. 正保絵図(1644~1647、写真1) この絵図は、現在内閣文庫に蔵されている63舗の正保城絵図と呼ばれているものの一つで、膳所城の描かれている最も古い絵図である。

正保城絵図は、正保元年12月に徳川三代将軍家光が諸国大名に命じて提出させた国郡絵図と対になるもので、集まった原図を基に狩野派によって描かれたものという。絵図の様式も統一され、本来機密であるべき城内が詳細に表現され、その資料価値は大変高いと評価されている。

この絵図によると、城郭の構造は、まず帯曲輪、本丸の一部が最も湖上へ突き出し、そこから西方へ堀を越えて廊下橋が二ノ丸へ架けられ内郭が形成される。さらに二ノ丸より西へ土橋を経て馬出に達し、上級士屋敷、倉の建ち並ぶ北ノ丸へ続き外郭となり、三方が堀で囲われる。そして、そこから城下を結ぶ南、北、中の三つの大手門が開かれている。城下には町屋の間を東海道が通り、所々に寺社が置かれ、周囲は中下級士屋敷になっていた。

以上を、寛文2年絵図と比べると、若干の表現の違いはあるものの、全体的に良く一致し、築城開始より約40年経過したこの頃には、完成していたとして良いであろう。

2. 正徳絵図(1716の写し、写真2) この絵図は、蓬左文庫蔵のもので、正徳6年に写されたものであるが内容は明らかに寛文2年以前の古い縄張りである。

この絵図の特徴は、城下の省略した表現に比べ、城郭中心部が詳細に描かれている点で、特に震災後、廃止されてしまう帯曲輪が特に誇張されている点が目につく。

帯曲輪について 出丸とも称する帯曲輪は本丸よりさらに湖に突き出た一郭で、その構造は湖上より水門→衡門(冠木門)→矢倉門と続く本格的な升形を形成し、天守のある本丸へ続いている。いわば、この帯曲輪は湖上からの大手門としても良い様な構造を持っているのである。

家康が大坂へ出陣した時や、その後家光が上洛した際、草津方面から大津へいたる方法は、必ず矢橋より舟を仕立てて大津へ入っており、途中膳所城にも度々寄っている。(家光は矢橋に舟才丸という専用の屋形舟を建造させている)

この様に、湖上より本丸天守へ入城できる限られた人物の為にこの帯曲輪が設けられていたと考えることが出来るのではないだろうか。

3. その他の絵図 表の3の大熊氏絵図は、先の蓬左文庫絵図と酷似している。

4の近江名所風俗図屏風も年代不詳ながら膳所城において本丸と二ノ丸の間に廊下橋が描かれていることより寛文2年以前と推定されているもので、この頃に描かれている鳥瞰図として貴重である。しかし、天守閣が三層に描かれるなど実際には則せず、もとより屏風図として見なければならぬだろう。

## (二) 震災期

寛文2年5月1日午之上刻(1662年6月16日午前11時ころ)滋賀町北小松付近にて起こったM7以上と推定される大地震によって、膳所城は大きな被害を受ける。例えば元延実録には「本多下総守居城江州膳所之飛脚到来、注進に伝く、当月朔日、居城膳所大地震にて天守許り残り、其外櫓等大に破損す」とあり、その被害の一端が知られる。

藩では早急に復旧に取り掛った様で、わずか2か月も満たない7月28日には、幕府へ被害状況の報告と修復計画の絵図が完成している。

1. 寛文2年絵図(1662、写真3、4) この絵図は2葉からなり、まず写真3では、震災直後の城の様子が描かれていて、克明に被害状況が記入されている。さらに写真4では今後の修復計画図が描かれていて、どの建物を修理するのか又は新規に建てるのかなどが明瞭にわかる様になっている。その裏面には建物種別ごとに、被害や新築の員数がわかる様に記述されている。なお、震災前後の建物の数は全体では増減なく守られている点は注目されよう。

写真3は基本的に先の正保絵図と大差なく、膳所城前期の姿を正確に伝えるものとして貴重であり、写真4の計画図も後期の諸絵図と変わらず、ほぼこの通り実施されたと考えられる。

写真4によると、その工事内容は、本丸と二ノ丸に架かる廊下橋を廃し、帯曲輪・本丸・二ノ丸の間の堀を全て埋め立て、それらを一体にして新たに本丸とした。これによって帯曲輪は完全に姿を消すことになった。そして三ノ丸を新たに二ノ丸とし本丸との間に廊下橋が架けられ、周囲に堀を設け、城主の住居並びに政所とした。その他、これに付随する建物の移動・修理や埋立て工事があり、城郭中心部の様相は一変する大工事であった。

元和元年(1615)4月にはいわゆる元和一國一城令が発布され、以後城郭の新造・修理は極端に規制されているわけであるが、徳川譜代の本多氏とは言え、この計画が許された背景は何であろうか。

修復前後の縄張の変化を比較して考えて見ると、まず第一に帯曲輪の廃止が注目される。先に帯曲輪を將軍の湖上からの入城の為の升形と推定したが、実は寛永11年(1634)以後、將軍の上洛は完全に中止されているのである。この為、矢橋の將軍の専用の舟舟才丸は

貞享2年(1685)には焼却されてしまうなど、この頃には將軍のための矢橋一膳所一大津の湖上輸送並びに帶曲輪は無用化していたと考えられるのである。

また、拡大した本丸には米倉が造られ、二ノ丸が充実するが、これは膳所城が慶長築城時の軍事重視の水城から、膳所藩6万石の経済統治の城へと役割が移行していく事を如実に物語っていると言えるのである。

この様に、寛文2年の震災を城郭改造のちょうど良い機会としてとらえ、膳所城は前期から後期へと姿を変えて行くのである。

なお、この修復計画が完了した時期は不詳であるが、古絵図からは寛文4年～貞享5年の間ということが考えられる。また間接的な資料ながら御大工(藩より禄をもらっている大工)宮木茂助が、寛文10年ころより、領内の神社などの復旧工事に係っていることが、棟札より知られるので、一応この頃には、城門の作事は終わっていると考えるのも良いかも知れない。

### (三) 後 期

寛文2年の震災後の修復計画が完了した時期より明治までの約200年間で、藩主の移動もなく、膳所藩が最も安定した時期である。

1. 貞享5年絵図(1688、写真5) これは本多氏の菩提寺である縁心寺に伝わるもので、後期の絵図としては最も古いものである。内容は城郭の一部の修理箇所を示しており、他に伝わる貞享4年の北大手門の仕様書などと一群のものと考えられる。

2. 元禄15年絵図(1702、写真6) これは赤穂浪士の一人赤穂源源の叔父にあたる赤穂所左衛門家につながる中村家に伝わるもので、大津市指定文化財になっているものである。大きさは東西2.12m、南北3.32mと大型で、城郭中心部はもちろんのこと、城下町までかなり高い精度の実測によって描かれている。

この絵図によって、今日あまりその姿を知られていない膳所城の天守閣の規模を知ることが出来る。それは東西8間(約14.5m)、南北6間(約11m)の平面に、3間×2間の玄関が取りついたものであった。これを彦根城天守閣の前身建物である大津城天守閣の推定復原と比較すると、四層であるのは同じであるが(階数は不明)、ひとまわり小さい天守閣であったようである。

また、この他に「覚え」があり、例えば町屋数460軒、侍家数467軒など、江戸時代中期の膳所藩の城下の様子を知る上で、貴重な資料になっている。

3. 宝永4年絵図(1707) これも旧膳所藩士沢村家に伝わるもので、宝永4年10月4日に起きた地震の被害を江戸幕府へ報告したものの控えである。

被害の状況は寛文2年の地震ほど大きくないものの天守閣が所々被損するなど、城郭全体に及んでいる。河洲を埋め立てて造られた城が地震に弱いことを良く

示していよう。

4. 正徳5年絵図(1715) これは先の1の貞永絵図と同じく縁心寺に伝わるもので、その下図もほとんど同じである。内容は、城の堀に土砂が溜ったためにそれをさらうもので、やはり幕府への報告の控えである。

5. 元文2年絵図(1737) これは県立図書館に伝わるもので、近江国膳所城破損之覚と記されているが、破損箇所は全て石垣である。下図は先の3の宝永絵図と同じである。

6. 文化10年絵図(1813) これも県立図書館にあるもので、元文絵図同様石垣修理のものである。

7. 浅野文庫絵図(年代不詳) これは安芸国37万石浅野藩に伝わるもので「諸国当城之図」と呼ばれる全154図のうち一枚である。年代は一応貞享3年から元禄16年の間と考えられている。内容は、道筋を中心とした概略的なものである。

8. 明治27年絵図(1894の写し) これは県立図書館に伝わり、他の平面図とは異なる詳細な鳥瞰図で、明治になってから膳所の某が写したものである。

絵には文化5年(1808)建設が開始された藩校の遠義堂が描かれているので、原図は幕末期のものであろう。表現は膳所城の北西部より俯瞰したもので、小建築にいたるまで、スケール感正しく、精密に描かれている。幕末期の膳所城を知る上で、貴重な絵図である。

### 膳所城の棄却

明治2年(1869)1月、薩摩藩等の版籍奉還に続き、徳川譜代の大名であった膳所藩も2月には奉還を行い、翌明治3年4月には、他藩に先駆けて廃城願いを提出し、ただちに許可されている。領下の神社には門を置かなかったため、一部の城門が近在の神社へ移されたが、他は入札により、縮めて1,200両で落札されたという。

慶長6年以後、約270年の膳所城の歴史はここに終わる。

以上、古絵図を基に膳所城のひとつの見方を示したが、不十分な所が多所あるはずである。今後の研究を多とする。

(大上直樹)

### 【参考文献】

- 近世初期城下絵図の一考察—いわゆる正保年間絵図について—(小和田哲男)
- 正保城絵図の刊行について(平井芳男)
- 古地震 寛文2年の近江の地震
- 膳所城遺構・篠津神社・鞆崎神社表門に就いて(城戸久)
- 明治前日本建築技術史(日本学士院)
- 膳所六万石史(竹内将人)
- 重要文化財膳所神社表門修理工事報告書
- 重要文化財篠津神社表門修理工事報告書